



管理部  
川上茉莉さん

魅力1

**働きやすく、休みやすい環境。**

交代勤務の製造職を除き、ほとんどの社員が17時の定時に退勤しています。有給休暇は自分の業務の都合さえついていれば前日の申請でも問題なく取れるので、プライベートもしっかり楽しむことができますよ。2回、3回と育休を取り、子育てしながら働き続ける先輩もたくさんいます。

魅力2

**穏やかな瀬戸の自然を感じる職場。**

役職や年代を問わず穏やかな雰囲気の人ばかりで、会社全体にほんわかとした空気が流れているんですよ。なんといっても社長がとても優しく、日頃から社員一人ひとりを気遣って声をかけてくださいます。広々とした海や山を望む立地も、社風に影響しているのかもしれないですね。



≡会社の魅力Pick up!≡

魅力1

**温かく和やかな人間関係。**

私がここに入社を希望したのは、採用担当の方がとても話しやすく、社内の雰囲気のよさが伝わってきたから。実際の通り、みんな気軽にわいわいとコミュニケーションを取りながら仕事をしていますね。他部署や工場の先輩たちも、会えば気さくに声をかけてくれるのですぐに打ち解けられました。



魅力2

**自分で考えてやってみる風土。**

若手のうちからどんどんいろんな経験をさせてくれる会社です。新しい仕事を任せられるときも、上から細かく指示を出されるのではなく、自分のペースでやりたいようにさせてもらえるのがいいですね。自分で考えてやってみて、わからないことを質問すれば丁寧に教えてくれるので、成長できます。



化成品部  
田邊耕平さん



**ナイカイ塩業株式会社  
の魅力を発掘!**

瀬戸の海の恵みを受け、  
製塩業で190余年の歴史を刻む。



プライベートな時間を大切にしながら、安定して働ける会社。誰とでも気軽に声を交わし合う明るい社風も魅力

休みや退勤後にひと汗かいてリフレッシュする社員も多い。転勤がなく、希望者は社宅や独身寮に低額で入居できる。オフタイムも充実させながら長く安心して働ける環境が整っており、社員の平均年齢は41歳、平均勤続年齢21年で、離職者がきわめて少なく、ほとんどの社員が定年まで勤務を続けられている。

社内の雰囲気も伝統的に穏やかで、部署や年代を超えて良好な人間関係が築かれている。「昔はほとんどの社員が地元出身で、親戚や知り合いが社内で大勢いる状態だったからか、お互いに自然と助け合う家族的な社風が生まれています。今でも家族2代、3代でこの社員という人は珍しくなく、子どもや孫を入社させたいと思える職場であるということが、何よりも働く環境のよさを物語っていますよね」と、國西課長はにこやかに話す。

人々の暮らしに欠かせない「塩」。200年近くにわたり途切れることなくこれを供給し続けてきた歴史が、揺るぎない安定した企業風土を作っている。



創業は文政12(1829)年、児島郡味野村(現倉敷市)の商人、野崎武左衛門が拓いた塩田から。当初は潮の干満差と自然の日照を利用した「入浜式塩田」、昭和20年代後半には動力を用いて生産効率を高めた「流下式塩田」、そして現在の電気エネルギーを用いて工業的に製造する「イオン膜濃縮製塩法」に至るまで、常に新しい製塩技術の研究・導入に努め事業を拡大させてきた。食用や工業用の塩だけでなく、高い純度が求められる医薬品原料塩についても、いち早くニーズをつかんでハイレベルな生産体制を整え、より高品質・高付加価値な製品づくりを行っている。

昭和16年からは、製塩技術を基に、海水のさらなる利用価値を求めて化成品事業に進出。肥料や工業薬品、医薬品、食品添加物等に用

製塩を中心に、化成品製造、不動産事業も展開。



えんぎょう  
**ナイカイ塩業株式会社**

玉野市胸上2721(本社工場)  
TEL.0863-41-1501  
https://www.naikai.co.jp/



Topics! 旧野崎家住宅



創業地の倉敷市児島に創業者・野崎武左衛門が江戸期に築いた邸宅は、国指定重要文化財「旧野崎家住宅」として往時のまま保存されている。約3000坪の敷地にある書院や座敷などの建築物と、美しい庭園は見もの。展示館では製塩業の歴史を学べる。

穏やかで安定した  
職場環境が最大の魅力。

「働き方改革」という言葉が生まれて久しいですが、当社は改革するまでもなく、昔から当たり前前に定時退社が根付いているんですよ」と語るのは、管理部の國西課長。3交代勤務の製造職を除き、ほとんどの社員が定時の17時に業務を終える。土日曜、祝日の休みはもちろん、お盆と年末年始には1週間程度のまとまった休暇があり、有給休暇も非常に取りやすい。また本社工場の広大な敷地内には、体育館や野球場を完備。トレーニングジムもあり、昼



常に品質と生産効率の向上を目指し、技術開発と設備投資に努めるとともに、人材教育にも力を入れている